

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.1 平成26年3月24日発行
発行責任者：八木 博

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館

Te l 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484

ma i l info@soya-teachers.org we b : http://www.soya-teachers.org

教職員として、「三つづくり」の方を發揮しよう 春、みんななで学校づくりをがんばろう

学校づくりの「指標」を「三つづくり」の取り組み

宗谷教組は、願いや要求で一致して集う職員団体（教職員の労働組合）です。一方で、「学校づくりと人事の取り組み」では、「相互激励・相互批判」による高まり合うことの必要性も訴えます。激励するだけでなく、時には目の前の子どもたちのために厳しい議論になることもあるということです。

ここ数年、宗谷の学校では、授業がなかなか成立しない、子どもたちが落ち着かない状況を管内各地で見聞きます。また、保護者との信頼を築くことができず、結果として子どもたちにしわ寄せがあり苦しんでいる事例もあります。

大切なのは、こうした事実の背景や本質をしっかりとつかむこと、批評家に陥ることなく子どもたちへのケアと教職員の力合わせを大切に実践を紡ぐことです。このふたつが両輪になることこそが「相互激励・相互援助」の具体化だということです。

宗谷教組には、約六十の分会があります。ひとつひとつの職場で組合と学校の「区別と関連」を大切にして、自覚的に考え合い、一人ひとりが職場・学校の中で力を發揮していくことが求められます。二〇一四年の宗谷教組の運動づくりの根幹は、区別と関連を大切にしたい分会独自の願いを「指針」としてまとめ、活動を進めることです。

春の取り組みは新たな時代へ

昨年度まで取り組んできた「春の学校づくりの要求書」を「学校づくりの指標」と「学校づくりの指針」へと転換することになりました。

大きく3つの意図があります。

「教師の責務」との関連

宗谷には歴史的に、いわゆる「三つづくり」という考え方があります。授業づくり・学校づくり、そして学校づくりです。教職員として三つづくりに責任



子どもたちの健やかな成長のために「民主的學校づくり」を進めよう

を果たすこと、そのための力をつけること、發揮することが大事です。

リード文として示したように、宗谷管内では「三つづくり」の視点で、「なおもつと」の力量向上が求められる現状があるのではないのでしょうか。こうした点に対応するためには、教職員として一人ひとりが授業づくり・集団づくり（学級づくり）、そして学校づくりにどのように責任を果たすかを考える必要があると思います。そして、「宗谷教組の組合員である私たちは、三つづくりのそれぞれの視点を大切に学校づくりを前進させるために力合わせをします」というのが、「指標」です。

指標の内容を学び合い教育実践を紡ぐことで、一人ひとりの教職員が「三つづくり」に対して責任を果たす力を發揮する…ということを考えるきっかけとしたいのです。

区別と関連を大切に

「教職員体制の課題」「授業づくり上の困難性」などの課題に対して、一人

ひとりの組合員が、教師として民主的學校づくりについてどのように責任を果たすかということが求められます。こうした視点をもとに「区別と関連」の考え方を大切に、分会や支部が主体となって高めていくことが大切です。

区	別…分会として独自にできることを考えたり、しかけづくりをする。
関	連…学校の教育課程、学校運営計画、分掌提案などを深める視点を大切にすること。
区	別と関連…組合の決定が学校を動かさない。奥ゆかしさを持つ取り組みだということ。

情勢の変化に対応して

国や道による管理と統制の教育施策も相次いでいます。だからこそ、ここまでに挙げたように、私たちの組合員としての力量向上、宗谷の教職員として「民主的學校づくり」を学び実践することが求められます。組合員として、教職員集団として学び合うことを大切にして、「学校づくり指標」を学び合いまししょう。

裏面では、「指標」と「指針」についてくわしく。

「学校づくりの指標」を学習し、

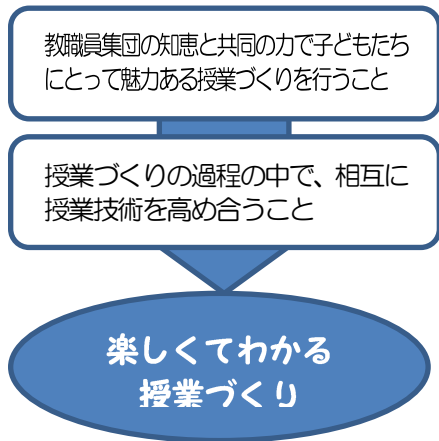
豊かな実践に近づけよう

おもて面で触れたように、「学校づくりの指標」は私たち組合員にとっては、学校づくりについて考える際の拠りどころとなるものです。「私たちは、(指標に書いてある)こうした視点を大切に学校づくりを前進させるために力合わせをします」というのが、「指標」です。

宗谷教職員組合として、宗谷の教育に携わるものとして大切にしていける内容を学習し、新年度スタートにあたり、校長先生と懇談する場面を設けましょう。

楽しくてわかる授業づくり

授業づくりについて考える際に大切にしたいことは、教職員集団の知恵と共同の力で子どもたちにとって魅力ある授業づくりを行うこと、そしてその過程の中で、相互に授業技術を高め合うことです。『楽しくてわかる授業づくり』とはこういうものだ」という考え



方をすることも大事ですが、左の図のように、二つの考え方に力点を置いた結果、「楽しくてわかる授業づくり」につながるという考え方をすることも大切です。

教職員集団で一致して進める 集団づくり(学級づくり)を

新自由主義の考え方が私たちの生活に蔓延している今日の社会は、分断と競争、そして格差社会といえます。そして、同時に私たちの生活の多くに、自己責任論の考え方が横行しています。

本来、未来を生きる子どもたちは、今日起こっている「競争と格差」の渦に巻き込まれるべきではないはず。『生きにくさ』という言葉、格差の連鎖を断ちきるための方策がなされるべきです。しかし、それは「べき論」であり難しいのが現実なのです。こうした社会の中で、子どもたちは集団性を高めるべく豊かな学校生活を送ります。そのために、私たちは集団づくりの視点を豊かに持つことが大切です。

子どもを主人公に、 父母が参加する学校づくりを

生きにくさを抱える現代社会の中では、親育ち、親同士つながりを創ることの意義

が大きくなっています。子どもたちの応援団として、保護者同士がつながり、地域のみなさんが力合わせをしていくために、元気なPTA活動、地域の総力を挙げた子育て支援体制の確立はこれからの時代で、重要な意味を持つようになってくることは間違いありません。この項では、PTA活動・子育て支援体制・小中連携をはじめとした各種の力合わせについて触れています。

激励し高まり合い、 教職員集団が輝く学校づくりを

宗谷で「学校職員評価制度」「査定昇給制度」が導入されるにあたっては、「学校づくりは、チームで行われるべきもの」「宗谷が大切にしてきた民主的學校づくりが壊され

る」と危惧する声が教職員からも、訴えかけた地域・保護者からも多数上がりました。二〇一五年一月昇給から月例給の査定昇給がはじまります。今こそ教職員の働き方と査定・評価のふたつの制度について学び考えを持つことが大切です。

教育条件整備を進めよう

私たちが求める教育条件整備は様々なものがあります。毎年の春の要求書で扱ってきた道・国段階での解決を図るような定数改善・学習指導要領改善という問題もあれば、学校備品の充実、校舎の改修など市町村段階の努力によるものも少なくありませんでした。指標では「教職員定数」「へき地級地」「教師の多忙」についてふれています。

「学校づくりの指標」を、 目の前の子もたちの実態に合った形に ～分会では「指針」の作成へ

上記の校長先生との懇談を大切にするとともに、組合員での「指標」に対する学習が大切です。その上で、一人ひとりの教職員として「三づくり」にどう力を発揮するか…ということを考え合うことが大切です。

- ① この「宗谷情報」を読んで、語り合おう。
指標と指針について、ねらいや本質について学び合い、語り合きましょう。
- ② 「指標」を読み合うことで、三づくりについて語り合おう。
「指標」に示されている内容をもとに、三づくりについて教職員としてどのように力を発揮できるか、また、そのために必要な取り組みについて考えを出し合ひましょう。
- ③ ここまでの取組をまとめたものが「指針」です。
教職員としてどのように力を発揮するか、ということをもとめたものが「指針」です。分会長・分会執行部が中心となって作成しましょう。

春休みは引越などもあり忙しいものです。まずは「今年初めて取り組む『学校づくり』の指針」について学び、春からの自分の仕事をイメージしながらたくさん語り合ひましょう。